



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

南スーダン：独立1周年—進まぬスーダンとの交渉—

主席研究員 中島 勇

南スーダンは、7月9日で建国1周年を迎えた。しかし、インフラ整備、腐敗防止など国内での課題が山積みである。また最も重要であるスーダンとの交渉は進展していない。南スーダンの独立は、先に国家の独立を宣言し、その後に国境画定などを行う形で進められた。そのため南スーダンは、スーダンとの協議で、国境、石油資源に関する問題、スーダンに在住する南スーダン人の問題などで合意する必要があるが、話し合いは進展していない。

石油輸出についての協議が難航した結果、2012年1月から、南スーダンからスーダン経由での石油輸出は停止されたままである。スーダン側は、南スーダンが石油の輸送のための通関税の支払いを拒否したとスーダンを、一方、南スーダンは、スーダンがパイプラインを差し押さえたと非難した。また南スーダンは、独立前から、アビエ地区をめぐる国境線確定でスーダンと対立してきたが、同問題も未解決である。2012年4月、スーダン南部のヘグリグ油田地域を南スーダンが占領したことで、一時戦闘が激化した。スーダンのバシール大統領、南スーダンのサルバキール大統領は、戦争も辞さないとの姿勢を見せるに至った。両国関係が緊張したため、国連安保理は、5月2日に、南北スーダンに2週間以内の交渉再開と3カ月で合意に至ることを求める決議を採択した。南北スーダンは、ようやく5月末からAUの仲介を受けて交渉を開始しているが、8月はじめまでの合意に至るかどうかもまったく不透明である。南スーダンでは、6月～7月頃から秋まで雨季になる。雨季の間、道路が泥道になるため部隊の移動が難しく大きな戦闘はないとの見方もある。

在外の南スーダン労働者

スーダン政府は、南スーダンが独立した際、スーダン在住の南スーダン人で南スーダン国籍を取得した者が継続してスーダンに留まることを認可しなかった。報道では、2011年7月時点で約36万人が南スーダンに戻り、約100万人の南スーダン人がスーダに残った。スーダン政府は、2012年の5月までに南スーダン人の追放を保留していたが、5月から一部の南スーダンの追放を開始している。他方、イスラエルは、2012年6月からアフリカ系不法移民の規制を強化しており、南スーダンの不法入国者の追放を開始している。